

事業名

## 校区内の環境整備 環境の一環として地域の安全・安心事業

目標

地域住民や子ども達など多くの人々のコミュニケーションを図ることができる。また地域の活性化へも貢献する

### 1. 取組の視点

本校区は近くに秋篠川が流れ、その土手には13年前から植樹した桜並木がある。そして、秋篠川源流を守る会や地域の方々が、自然環境の保全に取り組んでいる。

昔飛んでいたホタルが絶滅寸前の状態にある。ホタル再生プロジェクトを立ち上げることによって地域と学校園の連携が深まり、生徒や子ども達の生態系への関心が高まり、自然環境についての理解が深まるものと期待している。また、地域にとっても学校園との関係が深まり、学校支援活動への理解と参加が推進されることが期待できる。

### 2. 取組の概要

H22. 6月～現在：ホタル成虫捕獲・産卵・孵化  
ホタルの幼虫飼育開始

H22. 8月18日：シンボルトワー＝時計台の設置

H22. 11月29日：生徒向けホタル養殖講習会 開催

H22. 12月～2月：秋篠川生態系調査

H23. 2月18日：秋篠川生態系表示パネル設置

H23. 2月28日：秋篠川ホタル講演会 開催



(蛍とエサのさかまき貝の飼育水槽)



### 3. 成果と課題

「蛍の里」づくりに取り組むことで地域や子どもたちの生態系や自然環境への意識が高まるとともに、地域の方々と子どもたちなどコミュニケーションが図られ、学校と地域の連携が深まった。また、学校に飼育設備を設置することにより生徒の関心も高まりつつある。生態系パネルや講演会を通して、地域の方々のこのプロジェクトに対する期待も大きい。この事業は、学校・生徒・地域で連携して長期的・継続的に推進することが必要である。

事業名

**学び合い・主体的に生きていく生徒の育成**

目標

計画的な研修により、授業改善を行うと共に、諸行事を通して主体性を養う。また、地域の組織力を活用して多くの体験学習を行う

**1. 取組の視点**

授業改善を目的に、先進校を視察し（元吉原中5名・三重大学附属中学校5名・大桐中学校5名）で研究授業と研究協議に参加した。そして、「学びの共同体」授業の理解を深め、本校の授業改善を推進している。また、講師を招聘して、年間4回の研究授業と研究協議を実施することにより、教師の生徒観察の目を養っている。また、生徒会を活性化することにより、全校生徒が行事に積極的に取り組み異学年のコミュニケーションも育っている。

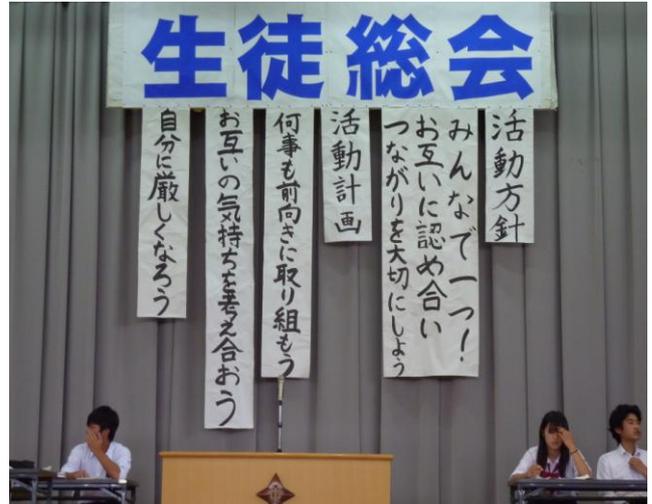
**2. 取組の概要**

研究授業・研究協議を通して授業改善を図るとともに、「学びの共同体」の授業形態を推し進め、多くの行事を体験することにより主体的に生きる力を育成している。

また、地域の組織力を活用した、ゲストティチャーの招聘や教育環境づくりを行った。



質の高い集団づくりについては、生徒会が中心になって「みんなで一つ お互いに認め合いつながりを大切にしよう」を年間スローガンに決定し、みんなに広めるために垂れ幕を製作し、校舎の壁面につりさせた。現在、全校がこの目標に向かって行動している。



生徒会が中心になった、リーダー研修を年間2回実施したことで、前向きな、学校の雰囲気作りができた。生徒自治の基盤づくりとして、まず生活の中の様々な場面での話し合いの仕方に重点を置いて取り組んだ。また、調理実習をすることにより、学年を超えてリーダー同士が交流しあい活発な活動を行った。

**3. 成果と課題**

各教科授業で「学びの共同体」を取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組み、より一層わかる授業、学びあえる授業を目指し、全教科で研修を深めた。

多くの行事を通して、学級の仲間づくり、コミュニケーション能力の向上を図った。今後、生徒一人ひとりの学びを保障するために「学びとつながり」を通して「できる力からわかる力へ」が実感できるように推進する。

事業名

**とどけ ハーモニー 音楽で地域をつなぐ**

目標

**音楽活動を通して、地域と学校がつながりを持ち、交流を広げること、地域の人々のつながりを深め広げる****1. 取組の視点**

本校では行事を通して、児童の意欲を高めはぐくむという視点を大切にしている。その中でも体育的行事や学芸的行事には特に力を入れ毎年成果を上げてきている。音楽的な取組については、学校内だけではなく、行事を保護者・地域に発信することにより学校への協力や理解を得ることに役立っている。また、子どもたちも発表する場を持つことにより、より良いものを目指していこうとする工夫や意欲、やり終えたときの成就感や充実感を味わっている。技術面だけではなく感情面、態度面も含め鶴舞の伝統として受け継いでいける取組として継続していきたい。

**2. 取組の概要**

毎年、保護者参観として「音楽会」を開催している。今では児童の保護者だけではなく、遠方に住む祖父母の姿も多く、児童数の3倍弱の



観客を集めるまでの盛況さになっている。また、地域にある養護老人ホームの方々を招待し交流を図っている。

運動会の集団演技には毎年力を入れ、子どもたちの表現の場面として重要な役割を果たしている。自分たちで自主練習し自ら高まっていこう

とする取り組みを続けてきている。

今年は、5・6年生が中心になり長年の課題であった鼓笛隊を結成することができ、運動会全体を盛り上げることができた。



幼稚園や保育園との交流も毎年行い、音楽会の演目で演奏会をしたり、運動会の演技を「出前劇団」として演じに行く取り組みを続けている。また、養護老人施設にも出かけて行き演技を披露し、交流を深めている。

**3. 成果と課題**

行事を通して、保護者・地域の方々とふれあう機会も増え日常生活の中でも、地域の方が声をかけてくれたり、子どもたちが挨拶をしたりする場面が増えた。運動会では保護者が子どもたちの鼓笛隊の衣装を手作りするなど学校への協力体制が強化され、子ども・地域・保護者・学校がつながりを持ち、子どもたちを育てていこうとする状況が今まで以上に感じられる。

事業名

## 命輝く環境づくり命育て！心輝け！

目標

地域の自然に学び、自然環境や生活環境を守り住みよい町づくりを考え、実践力を身につけていく。勤労生産学習や食育を通して、命の大切さ食の重要性を学ぶ

### 1. 取組の視点

地域の自然（学校の北面の森・秋篠川の河川学習・大洲公園の森林教育）を教材とし学習を進めてきている。校内に於いては「食蝶園」を設置し生態系の観察をしている、生き物の命輝くビオトープを学校につくり、具体的な体験の場を校内に設置することにより日常的・継続的な学習が可能になり、自然の大切さを学ぶことができると考えている。学校で学んだことを地域に発信しながら、地域環境を考え地域環境を守る実践力にまで高めていくことを目指している。

### 2. 取組の概要

校内には「学習用の森」や「食蝶園」などがあり、学校の近くには大洲池公園や秋篠川が流れ自然環境を学習する場としては恵まれている。特に4年生が中心に進めている環境学習では、秋篠川の学習を「秋篠川を守る会」の活動や森林学習・



中学校のホタルの学習と連携させながら学習を進めてきている。身近な学習の場として、ビオトープ作りを計画し、地域とのつながりを大切にしながらか進める上で、地域ボランティアや UR 都市機構の協力を得ることができたことは大変良かった。

まず、講師からビオトープの概要説明を聞き、事業の大まかな計画を立てていった。子どもたちで設計図を作り、4年生・5年生を中心に土木作業に取りかかった。ボランティアの方々には予定地の整備を手伝ってもらい、UR 都市機構の方の協

力（石の寄付）を得ることができ大変助かった。

地域の環境学習を学ぶことができた。ビオトープ作りに関連させて地域の人々・地域の企業の協力のもと、地域教材を使いながら学習したことで、環境学習の成果を上げることができた。また、秋篠川や地域学習で学んだ内容を「子どもの水辺」近畿大会でも発表することができ成果を残すことができた。

### 3. 成果と課題

ビオトープ作りにおいては、地域の環境学習へ



の意欲付けになり、自分たちが制作に関わることで興味を持って取り組むことができた。また、地域の方の協力や UR 都市機構の協力はありがたく、今後、地域学習の人材の発掘になった。



また、身近な学習場所ができ子どもたちが集える場となることで、年々、完成度を高めることにより次の学年へと引き継げる継続的な取組ができることを期待している。

事業名

## やさしさ発見 やさしさ実感プラン

目標

教育環境を整えることによって、子どもたちの心に、互いに慈しみ合う優しさを醸成する。また、飼育・栽培活動をとおして命の大切さを実感させる

### 1. 取組の視点

本校児童は明るく元気であるが、自分の気持ちや感情の表現が未熟なために、人間関係をうまく築けず、少人数のなかよしグループを形成する傾向が見受けられる。時にはいじめたり嘲笑したりといった課題が深刻化することもあった。

そこで、芝生広場や水生生物コーナーを学校環境として整備するとともに、学校図書館の環境をも整えることによって豊かな情操をはぐくみ、子どもたちの心に慈しみ合う気持ちを培いたいと考えた。児童の身近に生き物の存在する環境をつくり、責任感や自尊感情をはぐくむことで、命について考える場としたい。このような環境づくりを通して豊かな心の育成をめざしていきたい。

### 2. 取組の概要

- **芝生広場**: NPO法人ITステーション「市民と建設」の指導と協力によって芝生広場が完成した。学習活動や休憩時間の集いの広場として活用されている。



- **平城西水族館**: 児童昇降口前に、水槽を7つ並べ、水生生物を飼育している。毎日観察しながら会話する児童の姿がある。
- **学校図書館蔵書補修・ブッカーかけ**: 保護者と地域のボランティアがのべ60人参加し、蔵書200冊余りを補修。古くなった

図鑑を新しいものと入れ替えるなど、学校図書館を整備した。また、学級文庫にはリサイクル本を入れて冊数を増やした。



- 幼小連携の取組や環境学習など、幼児期からスタートする平城西小学校区での世界遺産学習に取り組んでいる。

### 3. 成果と課題

- ・芝生植え付けの準備から養生までの期間に余裕がなく、あわただしかったが、美しい芝生広場が完成した。指導してくださったNPOの方々と、草抜きの作業に地域の方の協力が得られたからこそと、感謝している。
- ・芝生広場は10月から、学習活動や休憩時間の広場として活用され、子どもたちの笑顔が広場にあふれている。
- ・水族館の設置と学級文庫の充実は、子どもの情操教育に役立っており、保護者や職員の評価が高い。
- ・本事業は順調に滑り出したが、継続させ、さらに活用を広げなければ本来の目的が達成できない。職員・児童だけでなく、保護者や地域とともに一層の充実を図っていきたい。
- ・情報発信と事業評価に十分取り組めずに終わった。次年度は積極的に取り組みたい。

事業名

**みんなあつまれ つるまいなかよしっ子**

目標

**地域の子どもは地域でつながる****1. 取組の視点**

幼児の育ちは幼児を取り巻いている環境が大きく影響している。地域にある幼稚園を中心に保育園や小学校との交流を図り活動の幅を広げることが大切である。一人一人が安心して遊べる環境の確保と共に友達とかかわれる場や機会がもてるような環境を工夫する。また、未就園児なかよし組に2・3歳児を受け入れ様々な体験を重ねていく。在園児親子や未就園児親子がつながり、園と家庭と地域が連携して交流を重ねていく。

**2. 取組の概要**

「地域の子どもは地域でつながる」ことを目標に保育園・幼稚園・小学校との連携を図り、未就園児を含めた地域ふれあい活動をすすめてきた。園内の環境の見直しを図り、園庭の花壇やボックスに季節の色とりどりの花を咲かせ、毎朝子ども達が水やりをしたことで、優しさや思いやりが育ってきた。保育園との交流では3・4・5歳児と交流を進める中で広い園庭でかけっこをしたり砂場で一緒に遊んだりした。作品展に見に来てもらい自分の作品を説明したり一緒に話し合う事で楽しいひと時を過ごすことができた。

小学校との連携では細かな計画の中、小学1・2年生と大淵池公園に園外保育に出かけたり、つるまにあきフェスタに参加して、お兄さんお姉さ



んとふれあいを楽しむなど、幼稚園児が小学生生活にスムーズに入れるよう交流を重ねてきた。また、なかよし組の取組では、未就園児2・3歳児を受け入れ、親子で在園児との交流をしたことで、親子の会話が豊富になり、保護者同士の子育てのよい機会となった。また、なかよし組の部屋の充実を図り絵本を購入した。

地域ふれあい観劇会では、保護者と一年生、なかよし組を招き腹話術を見た。始めて見た腹話術に感激し、巧みな話術にひきこまれた。

音楽鑑賞会では、大学生のお兄さんお姉さんに吹奏楽を演奏してもらった。楽器が奏でる音色に心を躍らせ、楽器に触れ、楽しい体験ができた。

**3. 成果と課題**

広い園庭で子ども達は幼稚園児・保育園児・小学生・未就園児とたくさんの友達や地域の方と交流することができた。様々な感動体験をすることにより、活気のみちたふれあいが見られ、豊かな感性を培うことができた。

家庭や地域の連携と共に他校園とも連携をし、交流をもつことは重要である。校園の教師間との綿密な打ち合わせをするなど、互いが育ち合える交流の場や機会をもてるように努めていきたい。

今後も連続性、継続性のある小学校や地域との交流を考え計画的に位置づけていきたい。

事業名

**みんなでつくろう楽しい幼稚園**

目標

**様々な体験を通して、地域・親子が共に楽しみ心豊かな幼児を育てる****1. 取組の視点**

園周辺は田畑や緑が豊かで自然に恵まれているが、家庭では土にふれる機会が少なくなってきた。そこで幼稚園では親子での栽培活動を取り入れ、生長や収穫の喜びを味わい、親子での自然体験を通して豊かな感動体験を共有する機会を取り入れてきた。

また年間を通して、園児や保護者が共に楽しみ様々な体験を通して人と関わるコミュニケーション力を養えるようにしてきた。保護者・幼児は特に親子での体験を楽しみにしており、絵本作り・たこ揚げをはじめ様々な親子での取り組みの活動を中心に心豊かな幼児を育て共に楽しめる幼稚園づくりを目指している。

**2. 取組の概要**

絵本作りやたこ揚げ・栽培活動など、親子で楽しめる充実した時間を持つことができた。地域の



方々の協力を得た「お話し会」・「お茶会」では、幼児たちはお家の方と一緒に工夫をしながら取り組んだ。また、未就園児（いちご組）、や近隣の小学校、中学校、地域のふれあい秋篠（老人施設）との交流を深め様々な体験ができた。特に今年度は小学校との連携が深まり互恵性を感じる交流となっている。また、人形劇観劇・音楽鑑賞会・親子運動遊びなどを年間計画に位置づけたこ

とで、保護者の方からは、「今までにない経験をした。」「親子の思い出になった」とのご意見をいただいた。また園内環境整備に関わる遊具やプー



ル壁のペンキ塗り作業や幼稚園の名前のプレートを作成するなど、保護者の皆様のご協力を得ることで充実した活動となった。「ペンキで絵を描くなどめったに味わえません。」「共に体験することの楽しさやすばらしさを味わいました。」「来年も計画してくださいね。」と保護者からの声がかれた。

**3. 成果と課題**

多くの感動体験は人と関わる力や心豊かな人間性を育む事につながった。大切な幼児期に貴重な体験ができた。

また、未就園児（いちご組）や地域の方々と交流を持ち様々な感動体験ができたことにより、保育内容の創造に近づいたように感じている。

多くの保護者の方々のご協力を得たことで、幼稚園を核とした、コミュニケーションが形成され、その中で子育て支援を推進することもできた。

早くからの計画を実施することで、地域の方々のお力をお借りするなど、今後は見通しをもち、計画性のもと実現していきたい。